

1. 議事日程（第11日目）

日程第 1 一般質問

1. 北垣 潮 君

- (1) 上天草市市政運営に関する施政方針について
- (2) 上天草市内の各中学校の進路状況について
- (3) 上天草市に与えるTPPの影響について
- (4) 脇浦集会所について

2. 宮下 昌子君

- (1) 施政方針について
- (2) 「まち・ひと・しごと総合戦略」について
- (3) 移住促進事業について
- (4) 農林水産物ブランド推進事業について

3. 桑原 千知君

- (1) 地方創生と地域医療構想への取り組みについて
- (2) くまもと県南フードバレーへの参入について
- (3) 尖閣周辺で操業する上天草船籍漁船の窮状について

---

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（16名）

議長 田中 勝毅

1 番 何川 誠	2 番 嶋元 秀司	3 番 切通 英博
4 番 塩田 真一	5 番 何川 雅彦	6 番 宮下 昌子
7 番 西本 輝幸	8 番 高橋 健	9 番 小西 涼司
10 番 北垣 潮	11 番 島田 光久	14 番 園田 一博
15 番 桑原 千知	16 番 渡辺 勝也	17 番 津留 和子

---

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。（0名）

な し

---

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市	長	堀江 隆臣	教	育	長	藤本 敏明
病院事業管理者		樋口 定信	総務企画部長			川端 義孝
市民生活部長		緒方 雅文	建設部長			澤村 弘史
経済振興部長		村川 和敬	教育部長			舛本 伸弘
健康福祉部長		野崎 秀満	上天草総合病院事務部長			松本 精史
総務課長		和田 好正	財政課長			坂田 結二
会計管理者		木本 昌亮	水道局長			藤島 幸治

---

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議会事務局長	山下 正	局長補佐	海崎 竜也
主事	木本 臣英		

---

開議 午前10時00分

○議長（田中 勝毅君） おはようございます。

出席議員が定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

それでは会議に入ります。

本日の議事日程はお手元に配付してあるとおりでございます。

---

日程第1 一般質問

○議長（田中 勝毅君） 日程第1、一般質問。

通告があつておりますので、順次発言を許します。

北垣潮君より資料の配付について申し出がありましたので、会議規則第157条によりこれを許可します。

10番、北垣潮君。

○10番（北垣 潮君） おはようございます。議席番号10番、北垣潮です。

今回はお聞きしたいことがいっぱいありました。質問項目は四つとなっておりますが、まだまだいっぱいあったのですが、1番の上天草市市政運営に関する施政方針についてに幾つか入れました。通告どおり質問しますが、全体で時間が足りないのではないかと考えております。

1番目に、1ページと11ページにあります市長の施政方針の中で、ことしは天草五橋開通50周年、雲仙天草国立公園指定60周年と、県内外から注目を集めるビッグチャンスの年であり、観光振興において転換期となる大事な1年になると捉えています。交流人口と観光産業の裾

野をさらに拡大し、仕事を生み出して、定住・移住の促進につなげていくため、熊本県などと連携したV I S I Tあまくさプロジェクトとしてさまざまな取り組みを行い、上天草市においても、1年間を通じて多くのイベントを実施してまいりますとありますが、具体的にどういうことをされるのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） おはようございます。よろしくお願いいたします。

今、議員おっしゃいましたとおり、天草五橋開通50周年、雲仙天草公立公園、天草地域が指定されて60周年という年になります。そこで、天草五橋開通50周年記念イベントの目玉事業について御説明したいと思います。

まず、9月25日日曜日に天草五橋HAND IN HANDというイベントを開催します。このイベントは天草2市1町や熊本県、観光協会、商工会など、各種団体で組織いたします天草地域観光推進協議会が主体となって取り組むものでございまして、天草五橋の2号橋から4号橋までの間を2,000人以上で手をつなぎ、ギネスに――。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） それは4日の議会でも聞きましたので、違うことを言ってください。

○経済振興部長（村川 和敬君） 同じような答弁になるんですが、よろしいですか。同じイベントですので。

○10番（北垣 潮君） じゃあ、やってください。

○経済振興部長（村川 和敬君） 続きまして、申し上げますと、そのイベントはギネスに挑戦をするものでございます。同じく25日に天草五橋開通50周年記念式典とシンポジウムを開催いたします。そのほかには、例年開催しております天草五橋祭に加えまして、市内全域をエリアとして、約1カ月間をかけて行う宝探しイベント、地元の音楽愛好家などを中心とした実行委員会による運営の音楽祭、市民有志による海岸を竹灯籠などの明かりで飾る天草海あかりなどのイベントを予定しております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 天草市のほうではいろんなイベントを計画されて、資料も集めておられるそうです。上天草市のほうには黙っていてくれと言って、いろいろ資料を集めておられるそうでもあります。私も国立公園に指定されて60周年ということで、国立公園指定に貢献された龍駿介画伯の絵画展といたしますか、そういうのをされたらなと思います。龍ヶ岳にも3点ぐらいあるそうでありまして、松島の阿村にも何人か持っておられるそうでもあります。大矢野にも何点かあると思いますし、姫戸にもあると思います。そういうものを集めて、龍駿介さんの描かれた絵を展示するとか、そういう催しはできないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 龍駿介画伯のことは存じております。たしか記念館が久留米

市かどこかにあったと思うんですけども、そちらのほうに天草の絵がたしか置いてあったと思っております。天草を旅されて、随分多く絵を描かれたということで、今、議員がおっしゃいましたように、上天草市内にその絵が実在するということを私は存じ上げておりませんでした。

今回、平成28年度、その絵画展を実施するかしないかは別にいたしまして、そういう絵画あるかどうかは、やはり調査すべきだと思います。時期が整いましたら、ぜひそういうことも開催していいのではないかと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 期待しております。

それから、以前に通告しておいて、議会で言わなかったことがありました。天草五橋建設に尽力された森国久展が天草市のほうで開催されたんですけど、それで、上天草市でも、去年3月の議会だったですね、開催は可能だということで答弁をいただきましたけど、これについてはいつごろになりますか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） おはようございます。

本件につきましては、議員より平成27年3月市議会の一般質問で、本市出身の森国久企画展が天草市の本渡歴史民俗資料館であったと。本市で企画展ができないかという御質問に対しまして、実施するのではなく、準備が整えば当然できると思うという市長答弁があったと認識しているところでございます。

参考となる天草歴史民俗資料館で行われた企画展は、全国の離島振興運動の指導者として運動の先頭に立ち続けられました宮本常一氏の写真展とあわせて、平成26年9月に実施されたものとなっております。

森氏の企画展の内容が、離島振興施策への貢献に加え、天草五橋建設を含む天草管内の道路整備に尽力された功績を含むものであれば、現在、市史編さんの段階でございまして、準備が整っていないという状況でございまして。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） では、これは上天草市ではないということですか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 郷土の誇りとなられる偉人につきましては、森国久氏を初め数人の方がおられます。現在、姫戸・龍ヶ岳町の市史編さんの事業で調査を行っているところでございまして、あわせて資料収集をしているところでございます。これらの資料収集の状況を踏まえ、郷土の偉人展にこだわることなく、機会を捉えながら、森国久氏を含めた偉人等を紹介し、地域の魅力として発信できる機会を捉えながらできれば、効果的ではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） ことは天草五橋開通の50周年の記念の年であります。堀江市長は、森氏の企画展についてはどのようにお考えですか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） おはようございます。

森国久氏の功績は、北垣議員がいつも発言されてるように、天草五橋、あるいは離島振興について本当に尽力をされた方ということで認識をしております。天草五橋の開通の記念にかかわらず、森国久氏の功績というのは、後世につなげていきたいという気持ちはあります。ただ、先ほど部長がお話ししましたように、森国久展を開催するとなれば、それ相当の資料の準備が当然必要になります。

今回の天草五橋50周年の記念イベントにつきましては、せんだっての一般質問でもお答えしましたように、過去のどういった方がどれだけ天草五橋に貢献したかという論争は避けたいというのが基本としてはありますので、森国久氏だけを取り上げて、天草五橋50周年のイベントに組み込むということは難しいとは思っています。ただ、今後も考えて、今後も森国久氏の貢献されたことを後世に伝えていくためには資料の収集も必要だと思いますし、そのタイミングで森国久氏の功績をたたえたイベントというか、そういったことを開催するのは可能だと考えています。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 市長の答弁を4日の日も聞いておりましたが、何か、よその、天草市のほうに貢献された方がいっぱいいらっしゃるとか、市長は上天草市の市民から選ばれた市長ですから、もうちょっと森慈秀さんの後とか、森国久さんの後を継いできておられるわけですから、歴史的に見れば。よそのことばかりを言わなくていいですよ。やはり上天草市の代表者、市民の代表ですから、私はもうちょっと持ち上げてほしいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 今回の天草五橋50周年の記念イベント、いわゆるV I S I Tあまくさプロジェクトは、上天草市、天草市、苓北町、3自治体と熊本県の天草広域本部が一緒になっています。今回のV I S I Tあまくさプロジェクトの代表は、熊本広域本部の本部長がつかれております。天草観光推進協議会というのを立ち上げて、そこでこの天草五橋のイベントが行われております。天草五橋ですから、必ずしもうちだけのことでなくて、天草全体のことを考えるべきということで動いておりますので、今回のことは、上天草市だけを主張すればいいということではないということも事実でございますので、そこは御理解をいただきたいと思えます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 確かに天草五橋の実現には、天草全島民が1円募金運動とか、盛り上がりがあったのも本当のことで、天草一八代架橋が進まなかったのと比べて、その盛り上がりは相当なものがあったと思います。いろんな人が、下島のほうにも頑張ってこられたというこ

とは私たちもわかっております。

ただ、上天草市としても、もっと盛り上げていく必要があると私は思います、地元の上天草市でございますので。上天草市の龍ヶ岳の町長さんの企画展が天草市であったということで、私は上天草市でもできないかということで。私は簡単にできると思いますよ、個人でもできるんじゃないかと私は思います。資料も10点ぐらい、愛用の手帳とか、ただそれくらいしかなかったですけど、大概、盛会だったと。いっぱいお客さんが来られたということで、期間も半年ぐらい延ばされたという話も聞いておりますので、それはちょっと上天草市の市長としては、おかしいんじゃないかなと私は思います。人それぞれの考え方がありますでしょうから、それくらいにしておきます。

施政方針に入っておりませんが、10ページの市の基幹産業の一つである観光産業につきましては、上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、ターゲットを設定した観光メニューの開発、観光客誘致に向けたイベントの充実、情報発信の強化、集客力を高める受入環境整備の推進、観光産業を担う経営者等の人材育成並びに組織化に向けて、効率的・効果的な施策を展開してまいりますとあります。

そこに関係すると思ひまして、キリスト教関連の世界遺産に、上天草市のいろんなクリシタンに関連したところがあります。この間、見送られたのは禁教から弾圧、再興ということで、再興ということがどうも疑わしいということで、禁教から弾圧という250年のことに絞ってほしいということが言われておりました。

禁教から弾圧ということになれば、確かに長崎の原城跡も世界遺産候補に入っておりますので、大矢野の大矢野城跡とか、大矢野にはいっぱい関連したところがあります。湯島にしても、談合島とって、島原勢と天草勢が話し合われたところとか、談合されたところとか、大矢野の教会跡、天草四郎の産湯を使った古井戸とか、たくさんあります。

また、禁教ということになれば、天草・島原の乱の48年前、九州は豊薩合戦の最中、薩摩の島津氏は肥後を征服し、天草も島津氏の支配下に下り、島津氏の命で天草5人衆は豊後へ出兵するが、豊後大友氏の一族、志賀親次、洗礼名ドン・パウロの攻撃を受け、全員が捕らえられてしまい、志賀親次は5人衆の中に唯一クリシタンとして混じっていたドン・ジョアン天草氏だけは命を助けようと申し出たが、天草氏は自分だけ助かることはできないと断ると、全員を許し、天草へ帰したと。そのやりとりを見た大矢野種基はキリスト教の教えに強く心を打たれ、人生の転換期を迎えることとなる。志賀殿の優しい心遣いと、クリシタンたちを相互にかたく結びつけているきずなを目撃したからである。日本の習慣であれば、もし、志賀殿がほかの宗教徒であったなら、皆を処刑していたはずで、予は既に地獄へ葬られていたであろうと、フロイス日本史に書かれております。

大友氏が豊臣氏出撃を要請したことで、島津氏は秀吉に屈服し、九州平定となりました。大阪へ帰る途中、突然、バテレン追放令を出したんですけど、大矢野氏はそんな中で洗礼して、予は今や関白がどのように教会とクリシタン集団を迫害しているかを承知している。だが、それは予

がキリシタンになりたいとの意欲を一層燃え立たせるのみである。予に関しては、何らかの疑念の念も起きない。関白が棄教するように命じられれば命を絶つ覚悟でありと、そういうこともフロイス日本史に書かれております。

その後、ほかの地方では十字架を隠していたんですけど、大矢野に十字架を立てて、大矢野町で洗礼を受けた者は4,000名を超えたとその当時は言われております。禁教の中でこういうことが行われたということで、大矢野城跡とか、そういうことも世界遺産に申請することができるのではないかと私は思いますけど、これについてどう思いますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） おはようございます。よろしく申し上げます。

キリスト教関連の世界遺産申請に本市のキリスト教関連も加えることはできないのかということですけども、まず、世界遺産に登録されるためには、登録基準に合致していること。それと、真実性や完全性の条件を満たすこと。また、各国の国内法による保護管理体制の徹底が必要となるものと伺っております。このようなさまざま条件がある中で、長崎の教会群とキリスト教関連遺産は、教会や天主堂とその関連施設8施設、城跡が2、聖地と集落2ということで、現在14の資産で構成されていると伺っております。

当市におきましても、長崎の教会群とキリスト教関連遺産の登録条件に合致する教会や集落等ははっきり確認されていないということで、現在のところ、登録申請については難しいのではないかと考えているところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 長崎の原城跡も遺産に入っております。そういうことで、私は天草四郎が出陣していった大矢野の巡行を入れてもいいんじゃないかと思ったものですから、こういう質問をすることになりました。

本当に、弾圧から復活、この内容にICOMOSはこれではおかしいと疑義を示し、禁教から弾圧の250年を重きにしてやり直すようになったわけであります。天草市議会でも、国に対して意見書を出されております。この中に天草という地名や名前も入れてほしいと。天草となれば、やはり天草全体、天草市においても、祇園橋での戦いとかいろんなどころがあります。富岡城での戦いもありましたし、富岡には千人塚とかもあります。大矢野は一番最初に走り出したところでもありますので、私は議会としても、市としてもこれは取り組むべきではないかと思えます。そういう意欲はありますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 当然、そこら辺については、いろいろ調査しながらやっていくべきだと思っております。また、世界遺産の申請に当たりましては、平成19年に第1回の長崎県世界遺産登録推進会議を開催されまして、顕著な普遍的価値の調査確認や後世資産の調査を行ってきたと伺っております。そこら辺で必要であれば、先ほど申されましたように、今

度の世界遺産に天草という地名も要望されるということですので、いろいろ検討は必要かと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 前向きに一生懸命検討してください。

次に、11ページの最近のアジア経済の伸展は目覚ましく、多くの国々で海外旅行ブームが起っています。今後、グルメや温泉など既存の観光資源に加え、クルージングやトレッキングなど、海、山の自然を活用したオールシーズンの観光地で積極的にPRし、韓国はもとより、台湾、香港等からの外国人誘客事業を展開してまいりますとあります。そこで、まず一つお聞きしますが、中国の国名が入っていませんけど、何か意図的なものがあったんでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 中国の船というと、八代港に入港するクルーズ船のことでしょうか。

○10番（北垣 潮君） 施政方針に中国という国名が入っていないと。

○経済振興部長（村川 和敬君） 市長の施政方針の中に中国が入っていないと。一応、台湾、香港等ということで、香港が中国領ですので、主に香港のほうからのクルーズ船が多ございしますので、そういう表現にしております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 何かうまく逃げられましたけど。やっぱり、中国の人が見たらちょっと怒るんじゃないかなと私は思います。

さきの県議会の一般質問の中で、元八代市長の自民党の県議さんが、質問に対して、知事は、ことしは大型クルーズ船が11隻来たが、来年度は50隻以上を目指すと答弁の中で言われておりました。

また、3月2日の午後8時からのRKKテレビ番組、知事選立候補予定者に聞くで、蒲島知事はことしは60隻のクルーズ船が来ると言われておりました。60隻のクルーズ船が目の中の八代港に来るわけです。橋があれば、大型バスが入ってくるかもしれませんが、橋はすぐにはできませんので、バスが乗れるフェリーボートがあれば、お客さんも簡単に来れると思います。フェリーボートを再開するという考えは、市長は全然ないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） クルーズ船のことについて、お答えすればいいんですか。それとも、フェリーのことについてですか。

○10番（北垣 潮君） クルーズ船もフェリーもどうぞ。

○市長（堀江 隆臣君） 去年、10隻、八代港にクルーズ船が入りました。私が市長に就任したのが12月なんですけど、昨年、年明けに八代市にまいりまして、クルーズ船のミニツアーの誘致ができないかということで、八代市の港湾の関係部局だったと思います、それと、民間の経済同友会の会長、経済同友会が八代のクルーズ船の仕掛け役だったこともありまして、行



きました。

いろいろ条件もありまして、なかなかすぐに進まなかったんです。一つは、基本的にカジノ船でありますので、ミニツアーを5時間以内にまずおさめたいというのがありました。そうなりますと、確かに車では非常に難しいので船ということになります。後は、寄港してすぐツアーに出て、そして帰ってきていただくということになりますので、基本的には定期便ではなくてチャーター便ということになります。ですから、大型バスがたくさん港に集結するわけです。

天草の場合は、バスでというのは非常に難しいのでチャーター船、船でのミニツアーの提案をしたところでありまして。その後、いろいろ県南の取り組みとか、行政的な手続の都合があって、県を含めて協議するというのが必要になりまして、県南広域本部、あるいは天草広域本部と協議を行って、最終的には中国のランドオペレーターという会社なんですけど、そこがツアーを仕切っているところになりまして、そこにトップセールスというか、営業にもまいりました。そういう努力もあって、去年の暮れぐらいからモニターツアーが実施されまして、ことしは正月にも、1月1日にもミニツアーとして天草にも来ていただきました。

来年は、知事の申しましたとおり大幅な増便を見込むということになれば、我々も天草に経済効果をもたらすために、さらに努力をしていく必要もあると思います。そういうお話になりますので、フェリーの定期便というのは、現実的にはクルーズ船に対応できるものではないと考えています。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） フェリーがあれば、高校の通学とか、八代市場に魚を送るとか、そういうことも私はできると思うわけです。上天草高校の志願者もびっくりするほど減っております。やはり魅力がないのかなと思いますし、以前は八代に通う生徒さんたちとか、姫戸、龍ヶ岳、松島付近からもいっぱいおられました。地元から通学できれば、学費というか、高校にかかる費用も安く済むんじゃないかという思いも含めて、フェリーの再開も一緒にできないかなと思いました。

今、一番中国人の観光客に人気が高いところはどここの国か御存じですか。私はこの間テレビで見たものですから知っているわけなんですけど、一番人気があるところはオーストラリアだそうです。なぜかという、中国人の爆食で行かれるそうであります。爆食となれば、大矢野のクルマエビも本当に足りなくなるほど、エビの生産も追いつかなくなるんじゃないのかという思いもしております。フェリーの再開はやはり検討はできないでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） クルーズ船の誘致に対してということではなくて、フェリーということですか。

○10番（北垣 潮君） いえ。どちらでも、できればということで。

○市長（堀江 隆臣君） 先ほども言いましたように、クルーズ船の対応にフェリーで対応するというのは、現実的にはないというのは重ねて申し上げます。

フェリーがあって、八代との文化的なつながりが非常に失われております。そういう意味で、私も天草の東海岸側に住んでいる人間としては、非常に寂しいです。私も高校は八代に行きましたし、病院も買い物もずっと八代の時代で育っていました。そういう意味で、八代と文化的・経済的つながりが薄れていくのは非常に寂しいものがありますので、できればフェリーで定期便をつくりたいというのが本音です。

ただ、言いましたように、ニーズがどんどん減っているのも事実であって、しかも運航していくとなれば、自治体としても非常に負担が必要になります。そこは八代と、今、協議もずっとやってるんですけど、なかなか負担とか現実的な、どのレベルの船をどうやってやっていくかというのが具体的に出てきていないのも事実です。運航するとなれば、民間の方に運航していただくことになりますので、じゃあ、どの方が手を上げてくれるかということになるんですけど、今の時点では、民間の方からも名乗り出る方がいないというのもあります。

ただ、今後、広域的に経済圏をつくっていくとか、連携を図っていくためには、何らかの連携定期便、公共交通機関の非常に少ない地域でありますので、そういったところでうまくいけばなという気持ちは希望としてはありますので、いい結論が出るまで今しばらくちょっと時間をいただけないですか。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） わかりました。

16ページに、学校教育につきましては、学力の向上と不登校児童生徒の減少、未然防止の重点課題として取り組みますとあります。不登校児童生徒の数はどれくらいでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育長。

○教育長（藤本 敏明君） 失礼いたします。私から答えさせていただきます。

文部科学省では、不登校児童生徒は何らかの要因で、年間30日以上休んだ人をカウントしております。これは病気以外でございます。それで、本市で累計30日以上欠席者は18人となっております。内訳は小学校4人、中学校14人でございます。これは私も非常に心を痛めている問題でございます。対策もですか。

○10番（北垣 潮君） いいです。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） いっぱい出しておりますので、これはまた次の機会に質問させていただきます。

確かに、私も不登校児童というのは本当に重く受けとめております。不登校といいますか、ひきこもり。大人になってもそういう感じで、本当にその人と一緒に暮らしている人が亡くなったらどうなるんだろうという思いで、一生懸命に取り組まなければならないと思っております。私自身も若いとき、ひきこもりの経験がありますので、このことについては、また次回質問します。

17ページの市史編さん事業についてお聞きします。進捗状況はどれくらいなのかということ、編さんの作成過程は公開できないかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 上天草市史姫戸町及び龍ヶ岳町編でございますけども、現在15人の編さん委員が調査・研究を進めております。平成29年度中の完了を目標に取り組んでいただいているところでございます。

また、進捗状況でございますけども、平成28年度予算におきまして、鬼の釜古墳や中世城跡、二間戸城及び大道城の地形測量や、姫浦層群が堆積し始めた絶対年代の測定等の予算をいただいておりますので、それを今年度中には行いたいと思っております。

それと、編さん過程の公開の件ですけれども、本年2月26日に開催いたしました第3回市史編さん委員会で、委員の方から、市の広報等を活用し、担当者ごとにコラム形式で進捗状況等を報告してはどうかという御提案があったそうでございます。担当課としては、広報の紙面の都合等を考慮しつつ、委員の協力をいただきながら、進捗状況等を市民の皆様にお伝えできればと考えている状況でございます。

以上でございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 私がなぜこういうことを言うのかと言いますと、大矢野町史ができたとき、雲仙普賢岳の災害の問題が、全然、大矢野町史には載っていなかったということと、天草四郎が宇土で生まれたということを書かれておられたので、後で天草市の方でしたか、維和島出身の方で、天草市の病院の奥さんだったんですけど、宇土生まれになっているとあって、大概、抗議して来られました。そういうこともありますので、編さん事業については公開をしてほしいと思います。

上天草市内の小中学校の進路状況についても入れておりましたけど、時間が限られておりますので、TPPについてを先に質問します。

12月議会で宮下議員から質問がありまして、それについての答弁を聞いておりましたが、確かに私自身もその当時は市長の答弁と同じような気持ちでした。どちらかというと賛成という感じと、まだTPPに関する情報が基本的に不足しておりますので、どうい影響があるかというのは今、判断しろと言われても難しいところがあるという答弁でありましたし、経済振興部長も、余り影響がないみたいな答弁でありました。

私も宇城、宇土、八代の議員さんたちと教育問題で勉強会をしました。その後の反省会で、宇城の議員さんが国に意見書を出したということで、やっぱり影響があるんだなということで、私も農林水産課長だったですかね、どうい影響があるんですかと聞いたら、農林水産省のホームページを見てくださいと言われて、あらっと思ったわけでありました。議会事務局ではかに意見書を出したところを調べてもらったりもしました。

2月26日にJAが県民アンケートをとりましたけど、賛成14.7%、反対30.1%、どちらとも言えないが55.2%でありました。県はTPPで最大の減産が132億円あると試算されましたけど、市の影響額は幾らになりますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） まず、熊本県の試算に関しましては、昨年12月24日に国が公表しました、農林水産物の生産額への影響についての考え方に沿って、熊本県が独自に県内農林水産物への影響額を実施可能な範囲で試算をした結果、81億7,000万円から132億円の影響が見込まれるものとしております。

本市の影響額ということですが、まず、本市の農林水産物の収穫量につきましては、JAや農事組合がございしますが、そちらのほうの出荷分については把握できますが、そのほかに個別に出荷されたり、個人取り引きをされた分がございまして、そちらは把握できないということです。

全体量の収穫量を把握するには、まず、市場においての出荷量調査とか、個人調査を行う必要があると考えております。このために、全体、まして品種ごとの農林水産物の生産量を把握するのは困難であると今現在は認識しているところです。調査を実施しようとしても、相当の時間を有し、また、すぐに試算額を弾き出すというのは、なかなか難しいのではないかと考えております。

同じような答弁になりますけれども、この前の議会におきまして答弁をしたとおり、米を例にとりますと、本市においてはほとんどが主食用の早期米であるために、影響は限定的であると。そのほかの農水産物に関しても、競合する輸入品目が少なく、影響は限定的だと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 影響は余りないと言いながら、試算ができないというのは、私はおかしいと思います。試算ができないというのは本当におかしいと思います。

ほかの市町村は、県に出向いて試算の方法とかを聞いておられますので、上だけ見なくて、市民の目線で、もうちょっと影響があるんじゃないのかなという気持ちで、私はそういう視点で考えて、もうちょっと勉強してほしいと思います。

私も、ついこの間までは全然わかりませんでした。いろいろ私も本を、何冊ぐらいでしょうか、TPPとついているのを10冊以上買いました。一番初めに買ったのは、総合文化誌、NPO法人くまもと文化振興会のものしかそこの本屋さんになかったので、これを買ってきました。TPPというのはどういうものかということを最初に書かれておりました。イギリスで第一次世界大戦前にこういうことがあったということで、熊本学園大学の山内良一先生が書かれていたものです。

一人の人は完全な自由貿易のもとでは、各国の労働、資本目的を自国にとって最も有利となるような用途に向け、それは資本労働をもっと意欲的かつ経済的に配分することによって、全般の利益を普及させると。これは推進のほうですね。反対の人は、外国からの輸入穀物に依存すれば国内農業が破壊され、資源の浪費を招き、また、国民の幸福や大いなる災難、戦争に対する安全の観点から、工業の発展を少し遅延させるという犠牲を払っても、農業と工業が足並みをそろえ

て発展していくことが望ましいということが言われたんですけど、イギリスは外に工業製品を売ること軸足を移して、国内農業をだめにして、第一次世界大戦も第二次世界大戦も大概苦労したということです。

私も若いときに自由民主党の洋上大学に行ったことがありました。朝から晩まで20日間ぐらい、晴海埠頭を出てから南太平洋をめぐる、勉強会があったんです。一番記憶に残っているのは食料の自給率の問題でありました。これをとめられると、どうもできないと。やはり農業を守っていかないといけないと、そういう思いがありました。まだそのときの食料自給率の問題が頭に入っております。

先日のRKKのテレビ番組で、3月2日でしたか、3人の知事の立候補者がTPPについて発言しておられました。弁護士の寺内氏は、県の試算でも130億円の影響があり、食料自給率も下がり、交渉から撤退しなければならないと。蒲島氏はただ一言、国難だと言われました。幸山氏は、なかなか情報が入ってこないと言われたので、私は何だと思っておりましたら、続けて、情報は求めていかなければ入ってこない、中山間地域が大きい影響を受けるだろうということをおっしゃられました。3人の候補者が全員、大変なことになるとの判断でありました。

関税を撤廃したらという試算では、食料自給率が40%から14%への低下になっておりますし、まだほかの問題でも、ベトナム付近からも労働者が340万人ぐらいは来るんじゃないかということで、国内でも大変なことになるということがわかりました。

やはりいろいろ調べていけば、本当に大変なことだと思います。各国の食料自給率がアメリカでは123%、カナダ173%、ドイツ85%、スペイン73%、フランス129%、イタリア70%、オランダ62%、スウェーデン81%、イギリス64%、スイス51%、オーストラリア245%、韓国45%、日本40%です。本当に大変な問題だと思います。

菅総理大臣のとき、尖閣諸島で中国漁船が海上保安庁の船に体当たりをして、中国側はレアアースの問題を出して釈放してしまうという、日本としては本当に不名誉なことがありましたけど、自給率というのは本当に大事なものだと思います。

京都大学の渡部忠世先生は、十数年のうちに世界的な食料パニックが来ると警告しておられます。世界人口が70億人から80億人になり、4大食料生産国のうち、ロシア、中国、インドが生産量よりも消費量が多くなるということをおっしゃっておりました。

TPPの水産物への影響は、ズワイガニ、タラバガニが4%即時撤廃、スケトウダラのすり身4.2%即時撤廃といろいろで、上天草市にとっては、タコが7%即時撤廃されるということで影響があるんじゃないかと思っております。

そのほかにもいろんな殺菌剤とか、殺虫剤の使用とか、成長ホルモンとか、いろいろ体に悪いこともいっぱいあります。たしか国民健康保険についても影響があるように聞いておりますけど、その辺は誰もわかりませんか。

国民健康保険については、私も以前言ったことがあると思っておりますけど、マイケル・ムーア監督の「シッコ」という映画を見られた方はいらっしゃらないですか。アメリカは、国民皆保険じゃ

なくて民間の保険で、大病をしたときは家を売ったり、そういうことが実態だそうであります。ほかにも民間の保険が強いというか、日本もそうになっていくんじゃないかなと懸念しております。ここはまた後で言います。

一番大事なところで、提出したときに議会事務局長からローカルな質問ですねと言われました。脇浦集会所について質問します。私も自分が最初に当選したときに、小さなことでも取り組みますと龍ヶ岳の町史にあったものですから、それを思いました。初心を忘れることなく、本当にローカルな質問をします。

脇浦集会所の横にふたなし側溝があったわけでありまして。バリアフリーの工事をして、そのこの区長さんが、ふたはできないでしょうかということでも市のほうに、執行部にお願いをされたところ、ポールを立ててやるからとか、予算がないからと言われたそうであります。現在、その工事をされた業者の人が板をはめてくれたということで、今こうなっております。このことについて、改修はできないのかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） おはようございます。よろしく申し上げます。

御質問の箇所につきましては、旧龍ヶ岳町が昭和47年の災害の集団移転地として、町内の7地区に海を埋め立てて造成した土地の一環となっております。この埋立地は海に面しているため、護岸を越波した海水が地面を洗掘しないように水叩きコンクリートが設置され、その排水対策として――。

○10番（北垣 潮君） 部長。時間がないので簡単にするか、しないかをお願いします。

○建設部長（澤村 弘史君） 12月に区長さんとお話をしたときに、コンポスの設置とか、転落防止柵の設置を考えておりますということで回答しております。その場合、予算の都合上早急な対応は難しいとの回答をしているところでございます。その結果、その間の対応策として、今現在、区のほうで板張りをしていただいているのかなと判断しているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 板では、梅雨場になると海苔が生えたりして、もっと危険なことになります。それから、木は腐るわけです。上から腐っていけばいいですけど、ああいう蓋の場合は下から腐れて、わからないうちに落ちてしまうこともありますので、コンクリートですることはできないでしょうかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） 木でできてるから、腐食のためということですけど、転落防止用の柵をすれば、そこにはもう入れない状態になりますので、板張りも必要ないかと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 柵をしても、集会所というのは子供たちがいっぱい集まってくるん

です。私は龍ヶ岳のほかの集会所をずっと見たんですけど、こういう危険なところはないですよ。どこもちゃんとしてありますよ。ぜひとも、こういうところは改善してほしいと思います。100万円も200万円もかかることじゃないです。市長、どう思いますか、これについては。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 北垣議員からの情報だけでは、ここでできますとは言えませんので、担当課、現地確認後、考えていきたいと思えます。

○議長（田中 勝毅君） 時間です。お疲れさまでした。

以上で、10番、北垣潮君の一般質問が終わりました。

ここで10分間休憩いたします。

休憩 午前11時02分

---

再開 午前11時11分

○議長（田中 勝毅君） 休憩前に引き続き再開いたします。

6番、宮下昌子君。

○6番（宮下 昌子君） 6番、日本共産党、宮下昌子です。それでは、通告に従い質問します。

まず、施政方針についてです。市長就任から1年が過ぎました。平成27年度も残り1カ月となっています。昨年の6月議会でも私は市政運営について質問をいたしました。市政運営というのは、その1年の、自治体の長である市長の、これをやりたいという強い思い入れが入っていると思いますので、このことについて質問していきたいと思っております。

去年、質問をしたときは、市長は就任初年度です。最低限必要な事業を計上した骨格予算として、大きな事業の見直しや先延ばしで、ある程度の予算縮小をされております。そして、地方創生に力を入れたいと発言をされました。新年度予算を策定するに当たっても、これまでの事業をある程度検証した上でのことだと思えます。まず、今、1年を振り返って、どのように総括されているのかを市長にお尋ねします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 市長に就任いたしまして1年が過ぎました。いよいよ平成28年度、新年度を迎える時期に来たわけなんですけど、1年を振り返りまして、自分なりに情熱と緊張感を持ってこの1年間は取り組んできたつもりです。幾つか複数の公約も掲げて市長になりましたけど、最初に第1に上げたのは、市民の信頼の回復ということでした。行政である以上は、市民の皆さんの信頼がなければ行政は回らないのは事実でもありますし、職員研修の徹底とか、意識改革、あるいは倫理規定の設置とか、そういったものも含めて、まずは信頼回復に向けて、市の職員、一致協力して行政運営に当たるということを掲げてやってきたところです。

後は、議員おっしゃいましたように、事業の精査も当然必要だと思えました。一本算定に向けての移行期間で、今、財政を縮小する時期に来ていますので、将来、持続可能な自治体を目指す上では必ず必要なことと思ひましてやっております。平成28年度におきましては、そういった意

味の検証も踏まえて、事業の進捗をしていきたいと考えております。

それと、もう一つは地方創生の件だと思います。マニフェストの中にも人口流出に歯どめをかける、いわゆる地場産業の育成というのも掲げました。まち・ひと・しごと創生本部の設置、そして総合戦略の策定に、この1年間を費やしてきたつもりです。

これまでの国の財政措置も随分趣が変わっているのも事実です。いわゆるハード整備ではなくて、ソフト事業が中心の交付金になっておりますし、これまでの事業のつくり方ではなくて、新しいアイデアとか想像力とか、そういったのを含めた提案をしていかないと、事業採択もままならないという非常に厳しい内容もあります。地方創生については、この1年間本当に力を入れて策定したところですので、平成28年度はいよいよ実施年度ということになりますので、結果を残すべく、そちらのほうに邁進してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 市長におかれましては就任1年目ということで、本当に緊張された1年だったのではないかと思います。これから上天草市をどうつくっていくかという上では、単年度だけではなくて、長いスパンで考えていくことが必要だと思っています。

まず、国からの交付金活用、総合戦略ということで、今年度から取り組んでいかれるということですけども、施政方針を読みましても、人口減少克服と地方創生への推進ということで、交付金を活用した総合戦略に基づいていろいろ事業が提示してあります。読んでみますと、やはり観光と6次産業化ということで、これはこれまでも取り組んできたことですけども、さらにそれを強く押し出されているのではないかなと予算を見て思いました。

今年度は天草五橋開通50周年ということもあって、さまざまなイベントが計画されております。これは私も、外に向かってアピールする大きなチャンスではないかなと思いますので、そういうことをされていかれるんだと思います。

行政運営においても、市長にとってはどれも大変大事なことだと思いますけれども、単年度で見っていきますと、ことしはこれ、じゃあ次年度はこれと、やはり予算配分はしていかなければならないということでもあります。そういう意味でも、本当に市長にとってはどれも大変大事だとは思いますが、今年度はこれに力を入れたいという強い思い入れといたしますか、それをお聞かせください。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 総合戦略の中で上げるということになれば、やっぱりまち・ひと・しごとの基本理念は、いわゆる都市部から地方にどうやって人の流れをつくるかというのがありますので、大きくものを言うと、人口流出にどれだけ歯どめをかけられるか。そう言いますと、ちょっと誤解もあるかもしれませんが、国としての今後のビジョンとかいろいろ考えても、人口減少をV字回復させるというのは非常に難しいと思っています。ですから、我々としても人口の減少はある程度受け入れざるを得ないという気持ちは、私もあります。ただ、その流れ



をどれだけ緩やかにすることができるのかというのが非常に大きな重要な課題と思っています。

そう考えますと、一つ重要なファクターはやはり雇用ということになってくると思っています。この前の一般質問でも申し上げましたように、基本的に雇用というのは民間の方がつくられるもので、それに対して我々がどれだけ雇用ができる環境を提案できるかとか、支援ができるかとか、民間の方と連携ができるかとか、そういったことになってくると思っています。そうなると、観光、あるいは1次産業、そして内航海運とか、海運業、こういったところの支援があれば、もっと可能性を秘めてるんじゃないかという部分がありますので、総合戦略におきましては、私は雇用をどうするかというのが非常に大きな課題だと思っています。

あと、もう一つ、私がぜひとも力を入れたいと思っているのは、ふるさと納税です。ふるさと納税で自主財源をどうやって確保していくかというのは非常に大きな課題で、私はまだまだ上天草市のポテンシャルを考えれば可能性はあると思っています。国策として、今後は企業版のふるさと納税の導入もありますし、上天草市のブランド化にもつながっていきますので、相乗効果もあると思っています。ですから、何とかこの1年、結果が出るように頑張りたいと思っています。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。私も常々、市民の皆さんから、若い人たちがこの上天草市で働ける場所づくりを何とかしてほしいという声をよく聞きます。やはり雇用はとても大事なことだと思います。特に、若い人たちの流出ですね、それを防ぐには地元で雇用をつくることだと思います。

ふるさと納税のほうも市長は言われましたが、今年度は大分、反響があったということで補正を組まれました。ちょっと後で、よその自治体のことについても触れたいと思いますが、自主財源といいますか、税収は高齢化と人口減少によってどんどん少なくなってきてますので、どこの自治体でも、いかに税収をふやしていくかということに力を入れておられます。ぜひ、これも力を入れてやっていくべきではないかと思います。また、農業、漁業に携わっている人たちの収入アップにもつながることだと思います。

総合戦略については、次の質問で取り上げたいと思いますが、施政方針の中で、市長は今年度はこれとこれということで今、お話しされました。歳出予算に、観光地としての集客力を拡大させる事業や、農林水産物、加工商品の生産、販売を拡大させる事業ということをやっています。天草五橋開通50周年を中心とした観光、それと6次産業化を進めるということで、大体、内容はわかりますけれども、もう一つ、子育て・子育てしやすいまちをつくる事業と書いてあります。これは予算上でも私には見えてこなかったんですが、子育て・子育てしやすいまちをつくる事業というのではどんなふうを考えておられますか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） これは学校の子供の教育の面も含めてなんですけど、要は、教育の支援を含めて、例えば放課後教育、学校が終わった後の放課後を利用して、地域も含めて子供たちをサポートする、そういった取り組みができないかというのをずっと考えておりました。そ

の中で、地域の皆さんにも参加していただいて、例えば学校の宿題の予習とか復習とかを含めて、もっと地域の方々に参加していただいて、子供の成長とか、学業のみならず、ほかのいろんなことも含めてやっていく、そういったサポートはできないかというのを実は考えていまして、そこは一つモデル地区を含めてやることになりました。姫戸ですね。姫戸地区でその取り組みを今年度行います。

なかなか教育の分野については、非常に難しいところもあるんですけど、学校だけで全ての教育がやれるかというのと、決してそうではないと思います。足りない部分を地域力を使って補って、子供の教育環境を改善するというか、向上が図れればということで、そういった事業に取り組むことにしております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 事業の中では、それは地域教育力醸成と安心子育て支援の島づくり事業ということですかね、社会教育でということですか。違いますか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 今、議員御質問の件は、地域未来塾教育活動サポーターということで、地域未来塾でございます。

○6番（宮下 昌子君） 金額は幾らですか、大体。

○教育部長（舩本 伸弘君） 金額は、事業費としてはトータルで約40万円程度の事業でございます。済みません、60万円程度でございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 姫戸地区が、先ほど市長がモデル地区ということで言われました。たしか姫戸は、3年間ほど地域の方たちのボランティアで、学校に出向いて子供たちと一緒にいろんなことをするというのでやっていました。そのことによって、子供たちだけではなくて、地域の高齢者の方たちなんかも、子供たちと一緒にやることによって元気になってきたというのも実際にありましたので、ぜひ、これは全市的に進めたらいいんじゃないですかということ、当時私は言った覚えがあります。そういうのがどんどん広がっていけばいいなと思います。先ほど私が言いました、地域教育力醸成と安心子育て支援の島づくり事業というのはどういう事業かをちょっと、通告してなかったけどわかりますよね。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 申し上げます。本事業は長期的なお話でございます。今、市が進めております子育ての部分で、将来的な話になりますけども、例えば今、小学生の子供たちが、将来、一度はふるさとから出ますけども、その子供たちが子育て世代になったときに、仕事と家族を連れて帰ってきて上天草市に貢献していただくと、そういった教育ができないかというところで、長期的になりますけども、そういった事業の展開を考えております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 具体的にどういうふうにしていくというのは考えておられるんですか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） まず、コーディネーターを今から、予算通過後になると思いますけども確保しまして、その方をメインに地元のお年寄りであったり、キャリア教育としては市内の事業者の方、あとは商品開発の事業者の方とか、社会教育主事経験者とか、そういった各方面の専門の方をお呼びしまして、勉強をしていくという形のやり方を考えております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。若い人が仕事がなくして市外に出ていくというのが多い状態ですので、長いスパンで考えて、若い人たちがここに残ってくれる、もしくは外に出ていった若い人たちが帰ってくるというのは、今から取り組んでいかれるということで、重要な事業であると思います。

実は、天草という地域が長崎県だと思ってる人がいるんです。私の都会の知り合いなんかそう思っていた人がいたものですから。ことしは天草五橋開通50周年の節目ということで、先ほど言いましたが、外に向けて上天草をアピールする絶好のチャンスだと思います。先ほどから経済振興部長が言われていましたが、イベントに関してはさまざまなイベントが計画されております。やはり、これは多くの市民が、例えば観光関係だけではなくて、たくさんの住民の人たちが参加できる、そしてみずからここに住んでる人たちが楽しいということが見えるものにしていただきたいと思います。

次に、総合戦略についてですけれども、総合戦略が策定されて、これに基づいた施策が展開されていくと思います。先ほども言いましたように、さまざまな事業が展開される中で、そこに住民がいかにかかわっていくかだと思います。これは聞くまでのことではないと思いますが、あえて市長にお尋ねいたします。住民自治についての市長の見解をお聞かせください。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 質問項目にもありますように、住民自治と団体自治ということですが、両方とも政治学上の考え方というか、概念になります。どちらかという、団体自治といえば、地方公共団体の独立性というか権限があるというような、そんなニュアンスの感じもしますし、住民自治は、より住民の皆さんとの協働社会というか、そういった理念の感じがします。

地方創生について言えば、やはり先ほどから申し上げますとおり、住民の皆さん、いわゆる民間の方々との連携が最も重要だと思いますので、住民自治のほうにより適合するんじゃないかと思っています。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） これまで自治体にお金が潤沢にあったときには、役所のほうから何かをしてもらうということが多かったと思うんですけど、今どこの自治体も財政的には大変なことになっております。

やはり住民自治というのは、先ほど市長も言われたように、住民の意思によって行われるということですので、大事なことではないかと思っています。例えられるのは、車の両輪ということと言

われてるわけですがけれども、これからはやはり住民自治というものに重きを置いていくべきだと思います。

我がまちをどうしたいかという、これは市長や行政の職員だけではなくて、私たち、そこに住んでいる住民が考えるべきということで、協働でまちづくりをするということが重要だと考えます。我がまちをよく知っている住民が知恵や意見を出し合い、議論していくことが大事だと思います。

総合戦略の策定に当たっては、推進会議が何回か開催されています。策定に当たっては、策定委員さんが31名ということで、委員会の議事録もホームページを見ると出てきますけれども、住民の参画がどのような形であったのかお伺いします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） よろしく申し上げます。

総合戦略の策定に当たりまして、住民の参画がどのような形であったのかという御質問ですが、総合戦略の策定に当たりましては、幅広い年齢層からなる市民を初めといたしまして、産業界から5人、行政機関から13人、教育機関から4人、金融機関から3人、関係団体等5人で構成する推進組織において、その方向性や具体案について協議・検討するなど、広く関係者の意見が反映されるようにすることが重要であると考えまして、本市におきましては、30人のうち民間15人で構成する上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議を設置したところでございます。

その中で、推進会議を5回開催いたしまして、総合戦略の案を策定するに至るまで、多くの関係者から意見を聴取するため、熊本県海運組合関係者であったり、移住者女子会等からのヒアリング、また湯島住民との意見交換会等を実施しまして、市民からの生の声を聞くことで、戦略に反映できたのではないかなと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。戦略の策定の中で、中には、先ほど言われたように団体の代表であったり、銀行、建設業の方が一般住民として参加されたということで認識してよろしいんですかね。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 委員の中には、15名の民間の方がいらっしゃるんですけども、そのほかに先ほども申しましたとおり、地域住民の方とも接触しながら、いろいろ意見を聞きながら策定したということでございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。委員会とは別に、一般の方から意見を聞く場を設けたということですね。その中で出てきた意見とか、そういうのも戦略の中に反映されているということに理解していいですか。

次に、議会のかかわりについてですがけれども、初日の質問でもありましたが、手引によると、

議会のかかわり方も重要だと書かれております。私たちは策定段階では参画することができませんでした。南関町や長洲町では、特別委員会をつくって議会からの提案もされたそうです。私自身も、もう少しみずからかかわることを主張すべきではなかったかと深く反省しております。住民の代表である議会のかかわり方については、いかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 確かに、総合戦略の策定のための手引のほうに、地方議会との関係についてということで、両輪となって推進することが重要であるとされております。今回、私どもが策定した中では、なかなかそこまでは実際至らなかったということですが、今後、事業を実施する段階で、いろんな形で議員の方とも相談しながら進めていければと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 先ほども言いましたけれども、私自身ももっと積極的にかかわるべきだったと反省はしているんですが、策定段階ではかかわることができませんでした。先ほど部長が言われましたように、今後の事業の効果・検証については、これからかかわっていくことができますので、ぜひその辺のことについてはかかわり、また、新しい提案などしていきたいと思えます。

次に、総合戦略を進めるに当たっての住民の参加ですけれども、行政指導の一人歩きではなくて、そこに地域住民がいかにかかわるかということなんですが、初日の答弁で市長も民間との協働・連携は大事だと述べられました。事業を進めるに当たってのかかわり方、検証についてのかかわり方については、いかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 今後、総合戦略を進めるに当たりまして、住民の方々の参加についてということですが、基本的な考えといたしまして、市民から上天草市にある恵まれた自然環境、歴史、文化、レジャー、スポーツなどの魅力を発信し、来ていただいた方々に観光だけでなく体験や市民との交流を通じまして、本市の魅力を広く伝えることにより、また新たに市民となった方を巻き込みながら、外に対して、いろんな情報発信へつなげることをイメージしております。

また、総合戦略の各事業の実施は、情報の発信については行政のみでなく、事業者や地域住民等を巻き込む形で進めて、より実現性がある施策に持っていければと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 民間の参加がなければ地方創生は成り立たないと市長も答弁されておりますので、ぜひ、住民自身も積極的にかかわっていくようにしなければいけないと思えます。

先日、ある勉強会に参加してきました。そこで宮崎県綾町のお話を聞きました。綾町は宮崎県の山間部にある人口約7,300人の小さな町です。以前、私たち市議会も、総務常任委員会だ

ったと思いますが、視察に行ったことがあります。山の中に観光用だけにつくられた大つり橋とかもありました。本当に自信を持ってお話しされたんですけど、プロのサッカー選手なんかも合宿できる立派なサッカー場がありました。あと、ワイナリーなどもあったと記憶しております。

綾町は、住民の積極的な行政への参画による自治を目指したということで、随分前ですけども、1951年に区長制度をやめて公民館制度にしています。22ある公民館では、4月から7月に、町長や執行部も参加して町政懇談会が開かれ、予算の説明があり、年明けには各種団体との懇談会も開かれ、町民の声が反映された予算となっているということでした。

先ほど、市長はふるさと納税にも力を入れたいと言われましたけれども、ちなみに、綾町は町税が約5億6,000万円だそうです。それに対してふるさと納税が約14億円だそうです。納税者へのお返しの農産物を渡すということで、それにかかる町民の所得がふえているということをお聞きしました。綾町がこの何十年かで、いろんなことをしてきておられるんですけども、詳しく話すには時間がないので省きますが、公民館制度にして、いろんな話を聞く中で、住民の身近な要求に応えるために、さまざまな補助金をふやされたそうです。そのことで厳しい財政状況に置かれ続けたけれども、地域に密着した積極的な投資や事業の展開は、後々、地域に雇用を生み、地域外から人を集めて外貨を稼ぐということにつながったということです。現在の綾町は子育てしやすい町、住みやすい町との評価が勝ち取られつつあり、人口減少が停止し、自然と調和した豊かで活力に満ちた教育文化都市の建設につながってきているということです。

先日、国勢調査の結果が発表されましたが、人口の減少率は、上天草市は9.71%でした。綾町は2.9%ということです。地方再生策というのは、総合戦略に限定されるものではないと思います。本当にやる気があるのであれば、交付金がかなくても単独でもやる覚悟で地方再生を目指してほしいと思います。長いスパンで考えれば、それがひいては綾町みたいに雇用を生み出し、人口減少にストップをかけることにつながるのではないかと思います。その覚悟については市長はどのようにお考えですか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） おっしゃるとおりだと思います。総合戦略も、1回つくったからずっと5年そのままかという、実はそうではありませんで、検証しながら、次の年は方針を若干変更するとか、そういったのもやりながら地方創生に向かえというのが国の方針でもあります。議員の皆さんに参加いただいて、いろんな新しい意見が出て、方針につけ加えるようであれば、そういう方法も別にあるということです。

それと、さっきおっしゃいましたように、確かにかなりのいろんな制約があります、地方創生の交付金というのは。ですから、対象にならない事業が出てくるのも事実なんです。ただそうであっても、やはりやらないといけない部分が出てくるのも事実であって、それに対応するために自主財源を何とか確保しないとイケないというのが実はありまして、ふるさと納税もとにかく頑張らないといけないというのが今の考えです。

綾町も本当に昔から、西日本の中では湯布院と並び称されるぐらい注目を集めている自治体で

もありますし、私も行ったことがあります。いろんな話を聞いても、やはりまちづくりというのは30年、50年のスパンが絶対必要だということをおっしゃられました。

一番最初に有名になったのは有機農業の取り組みだったんですけど、私が行った時点で、もう既に30年目と言われてたんで、ずっと過去からまちづくりという概念を持って自治体が動いてこられたということを理解しました。そういった意味では、我々も見習わないといけない部分も多分にあると思います。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） やはり地方創生、地方再生策というのは、上天草市に住んでいる人たちみんなが本気になって取り組んでいけば、いい方向に向いていくのではないかと思いますので、私たち議員ももちろんですが、住民の皆さんも一緒になって取り組んでいくというふうにしていただければと思います。

次に、移住促進事業について、先ほどもお話ししましたが、昨年行われた国勢調査の結果が発表されています。上天草市は5年前の2万9,902人から2万6,998人へ2,904人減少して、増減率はマイナス9.71%です。県内14市の中で最下位でした。町村を入れても、五木村、球磨村、山都町について4番目でした。新聞報道された結果を見ても、ショックというか、ショックは私自身はそんなにはなかったんですね。ああ、やっぱりなと思いました。こんなふう思ったのは私一人ではないと思います。

策定された総合戦略でも、若い世代の転出増と出生率の低下ですね。これは未婚や晩婚化も原因の一つではないかと思いますが、若い世代が出ていく、赤ちゃんが産まれない、そういうことが上げられております。

解決策の一つとして、今年度、交付金を活用した移住促進事業を展開されるのだと思います。予算概要説明による総額は2,541万5,000円だったと思います。これまでも実施してこられた事業、そして新たな事業もありますが、これまで実施されてきた事業の検証はされたのか。例えば、婚活イベントなんかはずっと何年かあって、しばらくお休みをして、また新たに今度始めるということになっておりますが、そういう事業の検証をされたのかということと、あと、これまで移住してこられた方の数と年齢層について伺います。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） まず、これまで実施した事業の検証ということですけども、本市では平成20年度より移住促進事業を開始しております。主な施策といたしまして、移住相談のアドバイザーの設置、それと移住情報サイト「上天草に住もう」の開設、それと都市部での移住相談会、セミナーにおける相談対応であったり情報提供、それと移住体験プランの提供、移住促進モデルタウン、住宅取得助成金に取り組んできたところでございます。これらの施策につきましては、その実績や移住希望者のニーズも踏まえ検証し、有効な移住施策の構築に現在取り組んでいるところでございます。

検証の内容といたしましては、移住相談アドバイザーの設置については、増加する移住相談等へのきめ細やかな対応が可能となったことはもちろんのこと、移住希望者と当アドバイザーが密に連絡をとりまして、信頼関係が構築され、移住希望者からも高い評価を得ているところでございます。

また、移住情報サイトにつきましては、有効な情報発信ツールとしての役割を担っておりまして、掲載情報の充実により、年々アクセス数も増加傾向にあります。

また、都市部での移住相談会、セミナー等における相談対応であったり、情報提供につきましては、実際に移住希望者と直接顔を合わせながら話をすることで、電話やメール等でのやりとり以上に本市の魅力や情報を伝えることができ、移住に関する不安とか、疑問とかの解消に役立っているのではないかと考えております。

また、婚活イベントにつきましてはですけども、実際、当市におきましては、婚活イベントを4度行っております。平成22年から平成25年まで開催しておりまして、9組のカップルが成立したんですけども、結婚までは結びついていない状況です。そのほか、商工会の団体であったり、市以外の主催でも実施されておりますけども、実際の市の主催の婚活イベントの実績といたしましては、平成22年度は参加者が58名、それと平成23年度が31名、平成24年度が33名、平成25年度が24名となっているところでございます。あとは――。

**○6番（宮下 昌子君）** 移住者の数はわかりますか。

**○総務企画部長（川端 義孝君）** 済みません。移住者の数ですけども、平成22年度が移住者数として2名、平成23年度が9名、平成24年度が7名、平成25年度が17名、平成26年度が13名、それと平成27年度が25名で合計の73名となっております。ちょっと年齢層については調べてないので、済みません。

**○議長（田中 勝毅君）** 宮下君。

**○6番（宮下 昌子君）** わかりました。これまで実施してきた中でも、婚活イベントをまた新たに再開されるということですけども、今度、平成28年度の事業でされる婚活イベントの内容に関しては、どういう思いで新たにしようと思われたのか。それと、よその先進地などで参考にされた事例などがあれば、それを教えていただきたいということと、あと、先ほどから言っていますように、交付金がかなくても、継続性ですね、実施されていくのかということについてお伺いします。

**○議長（田中 勝毅君）** 総務企画部長。

**○総務企画部長（川端 義孝君）** 今回、改めて婚活の事業を実施するに至った経緯につきましては、実は地方創生で人口をふやすためには何らかの事業を実施しないといけないということで、婚活につきましても、先ほど言いましたように参加者については実績があります。その中で、前回の内容といたしましては、こちらにいる男性の方々に対して、ただ参加者を募っただけということなんですけども、今回につきましては、男性の参加者に対しまして、コミュニケーションのスキルとかコーチング、例えば美容師と服装とかも相談しながら、より参加した男



性の内面的、外面的な魅力を最大限に引き出した上で、イベントに臨めるようにすると。それがひいては婚活の成功になるようにと考えております。

あと、継続性ということですけども、当然、地方創生ということで事業で申請してるわけですが、これが採択になるかならないかはまだ確定しておりませんが、当然、継続していくべきだと思っております。

まず、地方創生の交付金の該当となった場合におきましても、先ほど市長が申されたとおり、状況とか、K P I、重要指標とか、そこら辺をいろいろ見直ししながら、必要なところは改善しながら実施していくべき事業だと考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 外からの人を呼び込むということで移住促進事業があるわけですけども、移住者の方はこれまで73名、上天草に来ておられるということで、ある程度のこれまでの事業の効果があっていると私も思います。

それで、昨年11月5日と6日に、私たちは総務常任委員会で大分県の竹田市と豊後高田市に視察に行っていました。移住問題に関しては、竹田市の取り組みをお聞きしたんですが、竹田市は平成17年に1市3町で合併し、人口約2万3,000人の、周囲を九重連山や阿蘇外輪山に囲まれて武家屋敷も残る静かなまちでした。庁舎がお城の形をしていたのには驚きましたが、竹田市の移住事業としては、農村回帰宣言市ということで、全国から竹田市へ移住を促すさまざまな取り組みをされていました。助成制度も空き家活用奨励金、お試し暮らし短期滞在費助成金、空き家店舗対策事業補助金、空き家改修事業補助金、歴史・文化資源活用型起業支援事業補助金、起業家育成支援事業補助金、空き家バンク登録前の空き家改修事業補助金などあって、子育て支援住宅も新しく建設されておりました。

竹田市は竹工芸も盛んで、廃校を利用した工房の提供や作家の起業支援が充実していて、若い芸術家が移住してきておられました。今やインターネットの時代ですので、世界を相手にネットで商売しておられるそうです。不便な田舎でもできる仕事はたくさんあるんだなと私は思いました。

歴史・文化資源活用型起業支援事業補助金というのが使われているそうですけれども、上天草市も交通アクセスとしては不便なところではありますが、環境は申し分のないところだと思います。そういう先進地を参考にしながら、上天草市独自の事業を考えていかなければならないと思います。

竹田市の市政のキーワードということで書いてありましたので持ってきたんですけども、起業誘致ということで、起業の「き」が起こすという字になってます。「やってみなはれ、この町で」。農村回帰ということ先ほど言いましたが、「農村へ帰れと言ひし、友ありて」。地元に住んでいる友達が都会に出て行った友達を呼ぶということでしょうか。それと、知産知消というのは、「ち」が違います。知るという字です。「知人が生産、知人が消費、信頼と安心が世界を

めぐる」ということで、市政のキーワードということで移住問題に取り組んでおられました。

上天草市もこれだけ移住促進事業にお金をかけてやるわけです。宮崎県でしたか、今回、ビデオとか、シティープロモーション委託料ですか、つくられるということですけども、方言がフランス語に聞こえるようなものをつくって放送しているというのを、いつだったかテレビで見たことがあります。上天草市の魅力を知ってもらおうということでは、上天草市独自のいろいろなことを、若い人たちの発想で取り組んでいけばいいのではないかなと思いましたので、きょう紹介させていただきました。上天草市の独自の事業というのを考えていかなければならないと思えますけれども、その点についてはいかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 独自の施策ということですけども、たしか先進地の事例も一応、調べております。その中で、今回、上天草市で実施する移住関係の事業ですけども、先ほど申されましたプロモーションの動画の作成であったり、空き家バンクの創設、それと移住お試し施設であったり、定住奨励金を考えております。

実際にお試し施設に関しましては、市が民間の住宅を借り上げて、当該住宅を移住希望者に貸し出して、本市で生活の体験をしてもらう事業であったり、また、定住奨励金につきましては、本市に定住を目的として移住し、住宅を取得されたり新築された場合には、10万円の奨励金を交付するなどを考えているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 先ほども申しましたけども、やはり上天草市の魅力は環境だと思えます。これまでの移住者の方の年齢層はわからないということでしたけれども、多くの方はリタイアされた後、自然豊かなところでのんびり暮らしたいと考えて移住してこられた方たちではないかと思えます。そういう方々にももっとたくさん来ていただくのはもちろんですけども、このすばらしい環境で子育てをしたいと思う若い世代にも移住してもらえよう、移住促進事業を進めていってほしいと思えます。子育て支援住宅なども竹田市では建設もされておりますし、子育て世代に対してそういう支援をして、ぜひとも行きたいと思うように移住促進事業についてはやっていただければと思えます。

次に、農林水産物ブランド化推進事業に移ります。予算書を見ていて思ったんですけども、農林水産物加工品開発研究センターが設立から5年ほど経過しました。新年度予算でブランド化推進業務委託料として279万3,000円が計上してありました。ずっと調べておりましたら、前年度が866万9,000円ということでした。前年度は相談員1名、事務員1名の雇用という説明でしたが、今回、少し予算が減っております。これは交付金を活用してさまざまな事業が展開されて、ブランド推進室に委託されるということがこの間の説明でありましたので、その辺のことも関係あるのかと思うんですが、減額の理由について説明をお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） まず、ブランド推進室の件なんですけども、人員体制は今ま

でと変わりありません。

農林水産物ブランド化推進業務委託料につきましてですけれども、予算書においては大幅な予算減額になっているように見えますけれども、これは新年度の予算の計上の仕方が前年度と違うためでございます。

御説明いたしますと、平成27年度当初予算では866万9,000円を計上しておりましたが、平成28年度当初予算では、委託料を農林水産物ブランド化推進業務委託料279万3,000円、それと別に、地方創生加速化交付金を活用いたしました市産品開発支援事業委託料514万1,000円と二つに分けて計上させていただいております。

また、あわせまして、民間事業者が実施する6次産業化の推進を図るための事業への支援策といたしまして、農林水産物ブランド化補助金50万円を計上いたしております。これを合計いたしますと843万4,000円となりまして、前年度と余り変わらない予算額となります。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 相談員1名、事務員1名は変わらないということですが、人件費というのはどちらに入るんですか。市産品開発支援事業のほうに入るんですか。農林水産物ブランド化推進業務委託料の279万3,000円の内容は、二人分の人件費にしては少ないように思うんですけど。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） ちょっとそれは後で御報告させていただいてよろしいですか。申しわけありません。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。私がここに上げたのは、279万3,000円というのは二人分の人件費としてはちょっと少ないかなと思ったものですから、ひょっとしたら雇用を減らされるのかなと思ったので聞いてみました。

これまで開発センターで開発された商品の数が40から70ぐらいあるのかな、たくさんあると思いますけれども、その中で現在、商品として販売されているものは、どれぐらいの数があるかはわかりますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） これまでの商品開発につきましては、協議会が中心となって開発した商品と事業者を支援して開発した商品がございます。それを合わせますと、平成28年2月現在で93種類115商品となっております。

その中で、製造販売実績がある商品といたしましては、合計52商品。どのようなものがあるかといいますと、ドレッシング、ジャム、惣菜、スイーツなどでございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 現在52商品ということですが、ちなみにその中で、部長が自分でいろいろかかわってみて、自慢できるような1品というのはありますか、これはおいしかったと

か。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 私もまちづくり関係の団体で事務局をさせていただいております関係で、ドレッシングに挑戦をしたこともあります。販売まで行ったところですが、今現在ストップしてるんですけども。ドレッシングはなかなか味がよかったです。

今は上天草のだしですね。それが好評で、そちらのほうもおいしいと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 和風だしは賞をもらったんですよ。6次産業化というのは、農漁業者が生産、加工、販売までするというので、所得アップや雇用創出につながるということで進められてきました。設置目的にも、所得の向上及び就業機会の確保を目指すとなります。これまでの5年間の間で生産者の所得アップや雇用創出につながったと思われませんか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） これまでなかなか実感としましては伸び悩んでいるのではないかと考えています。そこで、課題といたしましては、高品質、インパクトのある商品開発、それからターゲットに合わせた商品企画、それから商談力の向上だとか、市のほうの体制といたしましては、適切な指導、助言が不足してたんじゃないかなということで、結果に結びついていないところがあるのではないかなと分析をいたしております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 私もいろいろな商品が開発されるときに、大体さんば一るにありますが、あそこに行って試食したり、いろいろしています。6次産業化というのは生産者の方たちがつくって販売して、つながっていかないといけないので、せっかくいいものが開発されても売れなければ収入アップにもつながらないし、雇用創出にもつながらないと思います。開発後の支援というの、とても大事だと思います。

今回、交付金を使った事業ということでいろいろ計画されております。これも、つくった商品売って所得につなげるということでの事業だと思いますけれども、ブラッシュアップ事業とか、そういうものが入ってるんだと思います。生産者に対する、例えば四郎魚〜ぎというのがずっとありました。せっかくつくっていろいろされましたけど、今はないようですが、生産者に対する開発後の支援はどんなふうを考えておられますか。

○議長（田中 勝毅君） 時間がありませんので簡潔にお願いします。

○経済振興部長（村川 和敬君） 当然、開発後の支援も行っていかなければいけないと思います。どうかが課題であるか、よく分析をいたしまして、販売力向上だとか、商品開発力につながるように支援をしていきたいと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 開発しても、そのまま商品が売れなければ何なりませんので、この事業に関してはぜひ、開発した後の支援を十分させていただいて、生産者の方の収入アップにな

るようにしていただきたいと思います。これで私の質問を終わります。

○議長（田中 勝毅君） 以上で6番、宮下昌子君の一般質問が終わりました。

ここで昼食のため休憩し、午後1時から再開いたします。

休憩 午後 0時12分

---

再開 午後 1時00分

○議長（田中 勝毅君） それでは、午前中に引き続き、一般質問を再開いたします。

桑原千知君より資料の配付について申し出がありましたので、会議規則第157条により、これを許可します。

15番、桑原千知君。

○15番（桑原 千知君） 会派あまくさ、桑原です。議長の許可が出ましたので、通告に従い、一般質問をしたいと思います。

12月議会では一般質問の初日でしたが、今度の議会では一般質問の最後となりました。そういうことで、大変お疲れのところではございますけど、私の質問に対しての答弁は簡単明瞭に一爽やかな気持ちで終わりたいと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。

今回の私の質問は、通告事項は同じですが、内容を大幅に修正しました。市長が初日の質問の中で、福祉行政に関して、議員からの質問に対し、具体的に示してくれ、内容次第であるけれども提案があれば受け入れると市長が答弁をされました。私はこれを聞いて、本当にもう頭の中のもやもやが解けて、霧が晴れるような思いでございました。だから、今、本当に爽やかな気持ちでここに立っております。今回は、より具体的に質問いたしますので、市長におかれましては、初日の答弁を踏まえて責任ある答弁をお願いし、質問に入りたいと思います。

今回、大きく分けて、3点の質問をさせていただきます。1点目は、地方創生と地域医療構想への取り組みについて、2点目はくまもと県南フードバレーへの参入について、3点目は、尖閣諸島周辺で操業する上天草船籍漁船の窮状についての3点でございます。順次、質問させていただきます。

まず、1点目です。昨年の12月議会では、地方創生への取り組み、地域医療構想による上天草総合病院への影響を質問いたしました。地方創生に関しては、国のまち・ひと・しごと・創生法施行に伴い、上天草市版総合戦略と人口ビジョンの策定を12月に行うという予定でございました。その後の経過をお尋ねいたします。総務企画部長。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） よろしく申し上げます。

昨年12月に計画を策定いたしまして、平成28年度の事業として、総合観光プロモーション事業、それと、湯島・樋合地区体験型観光拠点整備事業、それと、農林水産物販売促進事業、農林水産物等ブランド化推進事業、それと、海運業における海運業振興事業と移住促進事業等について取り組んでいく予定であります。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 詳細にわたっては、私も見た中で、ある程度理解はしておりますけど、この中の事業に関連して、今回、地方創生の枠内には合致しなかったと思いますが、総合戦略とあわせて行わなければならないのは、市の基盤整備でございます。これは、近年の異常気象を考えたとき、毎年のように起きる、高潮に対する市民の心配でございます。特に高潮対策は、市民の安心・安全を守る面から、毎年、継続的に行うべきと思うわけでございます。

今、漁港や港湾もある程度整備をされて、新しい補助事業を持ってこいと言っても難しい部分がありますけど、いつ、いかなるとき、予算が要求できるような情勢になるかわかりません。そのときには、即、出せるような体制をとっていかなければならないと思うわけでございますが、担当部の経済振興部長、建設と経済の担当部署の部長に、簡単でようございますので、その辺の中身を説明していただければと思います。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 経済振興部所管で農林水産課の施設でございますが、漁港を初め、農地海岸、排水機場がございます。これらの施設の問題点等については、市のほうで、調査、点検により把握をしているところでございます。そういうことで、中でも緊急を要する箇所については、津波・高潮危機管理対策事業など、国、県事業を活用して、早急に対策を講じたいと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） 建設課所管の施設としましては、市道、準用河川、普通河川と上天草港の10港区を管理しております。市道など道路関係、橋梁につきましては、毎年、今現在、専門的に点検を行っているところでございます。

上天草港については、今年度、平成28年度から、海岸構造物の長寿命化計画に係る点検費を計上しております。そして、平成30年度に長寿命化計画を作成し、その結果に基づいて、補助事業等のメニューに該当するような事業については整備計画を行っていくということで考えております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 今、両部長がある程度内容を言われましたけど、新たに発生する部分もあるだろうし、即対応する上においては、やはり、その箇所、部署においては一遍にできるはずはございません。財政的な部分も含めればですね。

ただ、少なくとも順位づけだけはして、その予算がついたとき、どこをどうするこうするという、その方向を示されるような形をですね、常にとっていけるような体制をお願いするわけでございます。いいですか。よろしく申し上げます。

そして、先ほどの上天草総合病院のことでございますけれど、上天草総合病院に関しては、国

の地域医療構想によって、上天草総合病院の病床数は、現在の195床から、10年後には40床ほど減少するという推計が出されていることについて、現在、地域医療構想検討部会で議論がなされている上天草市の地域性を認識してもらい、危機感を持って取り組んでほしいといった趣旨の質問を前回いたしました。その後の経過について、お尋ねをいたします。

○議長（田中 勝毅君） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（樋口 定信君） 桑原議員の質問にお答えします。

ただいま言われましたその40床を減らすということ、これはまだ、全然、決まってはおりません。12月議会でも説明しましたがけれども、地域医療構想というのは、2025年、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる年ですけれども、そのときの人口減少——人口とか、現在の病床期の報告で、重症の——高度急性期がどれくらいか、それから、急性期の数と、回復期、慢性期と分けて、2025年には天草地域でどれくらい病床が必要かということ、厚生労働省がいろいろなレセプトとか、いろんなものを参考にはじき出した数字でございます。それで、これがそのまま、これを参考にして、各都道府県でその2025年の病床をどうするかということを決めなさいと。知事が責任を持って決めるということになっております。

その数字からいきますと、確かに、先ほど言われましたように、天草地域では慢性期医療、つまり療養型ですね。療養型病床が現在1,400程ありますけれども、それが400程減らさなければいけないと、数字からいけばですね。それで大丈夫だと。ただ、その受け皿は全くないわけです。現在1,400人入院されている方の、その病床、病院から追い出された時の受け皿がない状態では、全く話が進まないということが一つあります。それで、あくまでもそれは参考資料の数字ですので、各県で協議をして決めていくということになります。

それから、12月9日に、当院、上天草総合病院に保健所から監査がありました。これは毎年監査があるわけですけれども、そのときに、この聞き取り調査がありました。どれだけの病床数が必要なのかということ聞き取る調査です。

そのときの保健所長との話し合いでは、やはり、私たちの病院は、非常に病床利用率が高いということ。そして、慢性期46床、療養病棟がありますけれども、その療養病棟の医療必要度が——。医療必要度というのは、介護型でなくて、医療型の療養病床ですと、医療区分が1から3まであるんですけども、その医療必要度が高い患者さん、すなわち、酸素吸入がずっと必要な人、それから、頻回に喀痰の吸引が必要な人等ですが、そういう医療必要度が高い患者さんがほとんどだということで、保健所長さんの言葉によれば、当院はその削減の対象には余りならないでしょうと。これは保健所長個人の意見ですので、まだ、その協議会で話し合わなければいけませんけれども、比較的、保健所としては、私たちの病院はどうしても必要なのだと。医療必要度も高いということで、余り削減の対象にはならないというふうな御意見でした。

ただ、やはり、天草全体でかなりの数を減らさなければいけませんので、全くゼロというわけにはいかないと思いますけれども、必要な病床数は確保できるように、この上天草地域、特に龍ヶ岳診療圏の松島まで、それと御所浦地域まで含めた必要な病床数が確保できるように、いろい

ろな協議会などの場でも発言していきたいと思っていますし、努力していくところです。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 今、病院事業管理者がお話をされました。前回、12月議会のとくと内容等については同じような話をしますが、本当に、樋口先生におかれましては、経営も含め、診察と両方で、大変でございます。そしてまた、この地域医療構想に対しての委員というのは、前回申しあげましたように、市長と病院事業管理者が重立った委員でございます。やはり、その補佐を市長が精いっぱいしてもらわなければ、樋口先生お一人ではできないわけでございますので、どうぞその辺も踏まえて、しっかり、この病院に関しては、上天草はもちろんでございますけれども、前回も申しあげましたように、龍ヶ岳にはなくてはならない、絶対に必要な病院でございますので、その辺も改めてお願い申しあげまして、話を地方創生のほうに戻させていただきます。市長のほうには、後でまた答弁を求めます。

上天草市まち・ひと・しごと・創生総合戦略の計画期間は、平成31年度までの4年間です。前回の質問でも申しあげましたが、少なくともそのうちの3年間は、堀江市長のもと、計画を遂行していかなければなりません。当然、国の動向、また、熊本県の施策をにらみながら、計画実現に邁進されることであろうと思っております。

今回、議会開会日に、堀江市長は副市長選任を提案され、棄権1名、ほかは14名全員が選任に賛成いたしました。議員それぞれの思惑はあれども、満場一致で選任されたことは、上天草市の将来を、議会として、やはり同じ思いを持ち、その望みを託した結果だと私は受けとめております。今回就任される副市長は、それぞれの議員も、それぞれのつながりの中で、どういう副市長だろうかということをおそらく認識されたいと思います。私も、自分なりに調べました。市長が冒頭で、県職員としての実績もあり、実務能力にも非常に長けておられるということを答弁されたわけでございますけれども、今回、議会がこれ以上ない形で副市長選任に同意したことは、上天草市に対する熊本県の大きなバックアップもこれ以上ない強いものになると、私自身、議員として思うわけでございます。同時に、市長としての責任も今まで以上に重くなる思いでおられるかと、私は認識するわけでございます。

市長が提案理由で説明された市役所職員の統括、指導など、内部の問題が大事なのは言うまでもありませんが、市政発展のため、熊本県とのつながりを生かし、総合戦略、市総合計画、また、市民の要望に即した事業計画を推し進めるのは、トップとしてのリーダーシップとスピード感を持った的確な判断以外にはございません。4月から副市長を置くことになり、新しい体制で就任2年目を迎える上天草市のトップとして、改めて、私から述べた事を踏まえて、市長にお尋ねいたします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 開会の日に議会の皆さん方の御理解をいただきまして、副市長を選任することができました。改めて感謝を申し上げたいと思います。県出身者の方を副市長として



迎えることで、やはり地方創生を含む行政の推進力を図りたいというのが、最も大きな部分であります。

御指摘のように、当然、お金もかかります。そういった意味では、我々も非常に、やはり覚悟が要る今回の決断でもありました。ただ、それだけに、副市長を迎えて、県との連携も深めて、地方創生に邁進したいという、その強い気持ちのあらわれでもあります。どうか、議会とも両輪の役割を果たして、地方創生に邁進できればと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 今、市長のお気持ちを聞く中で、いろいろな思いはそれぞれの議員の人たちにもおありだと思いますし、やはり、今、この窮状を乗り切っていく上において、どう行動すべきかということは、それぞれの思いの中でされると思いますが、何度も私は申し上げておりますが、執行部においては、どうぞ、市長を中心としてですね、何事にも即対応できる体制、手おくれのないようなしっかりとした形の中で動いていただくことをお願いして、次の質問に入ります。

くまもと県南フードバレーへの参入についてということで、次に、くまもと県南フードバレーへの上天草市の参加について質問をいたします。

昨日の熊本日日新聞の朝刊1面で、熊本県知事選の特集が掲載されておりました。記事の内容としては、熊本県北部と県南の格差が述べられておりました。人吉・球磨、天草、水俣・芦北の3地域は県内でも人口減少が著しく、10年間で住民が1割以上減り、南北格差は県政の長年の懸案であるとしています。

現職の蒲島知事が県南の懸案解消策として2期目に打ち出したのが、八代港を核とした八代市物流拠点構想と、今回の質問事項であるくまもと県南フードバレー構想です。先ほど述べた上天草市版総合戦略にも、大きく関係してくる施策であります。

上天草市版総合戦略には、政策の企画・実行に当たっての基本方針の（4）に、県及び近隣自治体との連携の推進をうたっております。本市の総合戦略に掲げた施策と県及び近隣市町村の個性を生かした取り組みが相まって、相乗効果を生み出せるよう、本市、県及び近隣市町は方向性を共有し、連携しながら地方創生の実現に取り組むとされております。

今述べたことは、今から提案するくまもと県南フードバレー構想へ上天草市が参入する、一番の意義です。また、総合戦略の具体的な施策においても、地場産業の強化支援及び育成、農林水産物の販路開拓、集客力を高める受け入れ環境整備の推進にまでつながる取り組みであります。このような計画を実現するための方法として、上天草市単独での施策は、財政的にも人的にも限られてきます。国、県の施策で、上天草の利点を生かせるものがあれば、まず、連携することが大事であるということで、今回のくまもと県南フードバレー構想に関する質問をしたわけでございます。

御承知のとおり、このフードバレーの語源は、アメリカのシリコンバレーがコンピューター産業の集積地であることに由来し、平成16年より、静岡県富士宮市において、食の集積という構

想のもと、フードバレーという言葉が生まれました。

資料をごらんください。

熊本県でも、平成25年にくまもと県南フードバレー構想を策定いたしました。まず、県南地域をこの構想によって、フードバレー、食の集積地とすること。さらに、天草、宇城と地域を拡大し、将来的には、県下全域に拡大したいというものです。

この構想は県が最も力を入れている取り組みの一つであり、熊本県の施策の基本方針である幸せ実感くまもと4カ年戦略に基づき、構想地域である県南地域、八代、水俣・芦北、人吉・球磨の豊富な農林水産物を生かし、食に関連した研究開発機能や企業を集積させるフードバレーを形成し、県南地域全体の活性化を目指すことが構想の趣旨になっております。

くまもと県南フードバレー構想について、上天草市としては認識をされていたのでしょうか、担当部長。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） くまもと県南フードバレー構想につきましては、熊本県が平成25年3月に策定していらっしゃいます。そして、同年7月には、くまもと県南フードバレー推進協議会を設立されているところでございます。

現在、推進協議会におきましては、地域内生産物の高付加価値、販路拡大、貿易拡大、人材育成などに積極的に取り組まれていると認識をしているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） まだ、その会員になっていないわけですから、表面的な部分の中での認識だと思いますけども、これを機会に、もう少し踏み込んだ中で、皆さんが理解を共有していただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

まず、私がこの質問に至った経緯ですが、私が天草郡市漁業協同組合長会で本年1月29日から30日に、台湾の基隆市において、くまもと県南フードバレーフェアIN台湾基隆市に参加したことがきっかけでございます。

基隆市は台湾の最北にある都市であり、台湾で2番目の取り扱い量を誇る港で、台湾の貿易、物流の重要拠点となっております。人口は約37万人。日本統治時代に近代港湾として整備され、当時から、日本内地に最も近い貿易港として栄えた歴史があります。

今回、八代市主催のくまもと県南フードバレーフェアの目的は、概要説明によると――資料はありますか。

くまもと県南フードバレー構想において、四つの基本方針の中で、アジアとの販路づくりを掲げています。台湾は世界でも最も親日的な地域の一つであり、中でも、台湾北部に位置する基隆市は国内最大級の港であり、今後、台湾航路の実現につながる地域でもあります。また、基隆市とは長年にわたり、民間の経済団体間で交流がっており、市場開拓の可能性は高い地域であります。そこで、基隆市における継続的な事業展開の契機とするため、物産フェアを開催すると記載されております。

日程は、1月30日、31日の2日間で、場所は今申しあげました台湾基隆駅構内。主催は八代市。来場者は、2日間で約1万人。物産展の参加事業者は、民間6団体、行政は氷川町と水上村の2自治体で、合計8団体。物産展売り上げは約100万円であったと事業報告書には記載されております。

八代市には、農林水産部の中にフードバレー推進課を設けてあります。私は、帰国後すぐ八代市役所に出向きました。担当部長と、台湾でお会いした女性の主任の窪田智子さんという方と改めて会いまして、本人から、また、その経緯も詳しく聞きました。貿易等の問題でいろいろ交渉する中では、商社を退職された人をアドバイザーに呼んだり、いろいろなことをなさったそうです。そうやって1年前から計画を立てて、今回、結果を残したその窪田さんの――何と申しますか、私に対して説明する顔が本当に生き生きしていて、ああ、すごいなという感動を受けた、そういった場面があったわけでございます。資料に写真つきで載せておりますけれど、その中にも、その人がおられます。

内容につきましては、八代特産物であるイグサを使用した畳の空間をつくり、茶道の実演や着物の着つけ、民謡ステージ、日本食の振る舞いとしておにぎりの配布などを行いました。また、物産展は売り切れ続出の大盛況でございました。

そしてまた、この予算そのものが450万円ぐらいでできたわけですね。私は本当に不思議でたまらなかったんですよ、この説明をですね。経済振興部長、ぜひともこれは参考にさせていただいて、どのような形でこういう展開ができたものか、勉強していただければと思います。上天草市においても、6次産業推進は何年も前から重点的に取り組んでいるところであり、地方創生総合戦略にも、農林水産物・加工食品の生産・販売の拡大を掲げてあります。

経済振興部長に質問いたします。

これまで、同様の物産展は何度も開催されてきたと思いますが、海外での実績がわかればお伺いいたします。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 本市の海外での物産展の実績についてでございますが、まず、平成24年に台湾企業の主催による、台湾のデパートでの物産販売を行っております。そして、同じく平成24年に、熊本県が実施した貿易会社への委託事業におきまして、これも台湾のデパートで物産販売を行っております。それと、平成25年でございますが、熊本県の主催事業におきまして、シンガポールでの物産販売、それと、商談会を実施しております。

販売商品といたしましては、パール柑などかんきつ類、それとタマネギや大根などの野菜類、ドレッシングや調味料などがございます。成果といたしましては、継続的な食材の輸出には結びついていないというところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 恐らく、単発的なフェアだと思うわけですが、後で述べますけれども、その辺も含めて、私が今から言うことを聞いていただければと思っております。

今回の質問の趣旨は、上天草市がいち早く、熊本県が主導する施策に他の自治体に先駆けて手を挙げて参入することによって、いろいろな可能性が開けてくるということです。先ほど言いましたように、同じようなことは取り組んでいます、既に連携している上天草市、天草市、苓北町という枠組みだけでは頭打ちになるということでございます。物産の量も限られるし、今言われたとおり、品目も限られます。このくまもと県南フードバレー構想のような熊本県が主導する施策に、県南と連携して一体となった販路拡大を行えば、予算も少なく、最大の効果が上げられると。何をさておいても、本当に、持続的につながっていかねば意味がないと思います。

今回のことで、そういう展開になる可能性が生まれるわけでございますので、それを踏まえて、今回、前島開発予算が当初予算に計上されていますが、八代港には、先ほど議員の誰かが言いましたけど、大型客船が年間10隻以上寄港しております。乗客は約4,000人です。この乗客の何割かを上天草市の観光に引っ張ってこれれば、前島の観光拠点としての、今まで以上の大きな可能性が広がっていくのではないかと考えております。八代市とは航路が廃止され、八代・天草架橋もまだ進展を見ておりません。このようなきっかけをつくって、これまでと違った形で交流すればいいのではないかと。そのためには、まず、行政間で連携を持つことが必要ではないかと考えております。

また、農林水産物の輸出に関しても、制度改正で、商社を通さずに輸出できるなど、かなり簡素化され、その他幾つもメリットがあるというようなことも、先ほど申しました八代のフードバレー推進課の女性が言うておられました。

このフードバレー構想に関しては、先般、熊本県の総務部長とたまたま会う機会があり、私なりに台湾でのイベントで感じたことを述べ、その構想に上天草市が参入できないだろうかという問いかけをいたしました。総務部長は、熊本県とすれば、構想にもあるように、将来的には県南も天草と一体となってやるべきで、いち早く上天草市が手を挙げて参入してくれれば、他の自治体にもよい影響が出て、構想にも弾みがつき、蒲島知事も大歓迎だろうということを書べられました。

経済振興部長に質問いたします。

上天草市として、くまもと県南フードバレーと連携して、上天草市の農水産物販路拡大に取り組むおつもりはないか、お伺いいたします。

**○議長（田中 勝毅君）** 経済振興部長。

**○経済振興部長（村川 和敬君）** くまもと県南フードバレーへの参入についてでございますが、県南地域に負けず、上天草市にも誇れる産品がたくさんあることは、もう御承知のとおりでございます。しかしながら、販路拡大や貿易拡大といった面では、苦戦をしているところです。

くまもと県南フードバレー構想には、天草地域は構想推進エリアとして一体となった展開を図ると示されております。そういったことを踏まえまして、今後、熊本県や八代市、くまもと県南フードバレー推進協議会の御意見を伺いながら、また、御相談しながら、早い段階で連携が可能となるよう努めていきたいと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 部長、ぜひとも――。市長には後で答弁を求めますけれど、やはり何をするにおいても、財政やお金ということになります。財政難の中で少しでも負担を軽くするよう、先ほど申しましたように、熊本県が主導している部分に――何と申しますか、まず飛び乗って、いろいろと上天草市のためになるような部分を生かせるように、ぜひ、努力をしていただきたいと思っております。いいですか。

そしてまた、先ほど、八代と上天草市の関係で、八代・天草架橋の話をしていただきましたが、2月16日に、松島町のアロマで県南振興と天草活性化シンポジウムが開催されました。八代・天草架橋建設促進民間協力期成会の主催です。八代市議会も、上天草市議会も、八代・天草架橋議員連盟としてポスターに名前が載っていたが、正式な案内も開催の告知もしないままの開催であったと聞いております。新聞でしか内容は把握できませんが、これには堀江市長、山口県議ともパネルディスカッションに参加されたとのことでした。

私は、年に一度開催される八代・天草架橋の議員連盟総会でも、何度となく、内側で議論するよりも、行政と一体となって、代表者数人でも、毎年、国に要望しに行き、行動を起こすことだと申し上げてきました。

しかし、八代・天草架橋に関しては、行政の期成会、県議会の議員連盟、市議会の議員連盟、民間の期成会等をつくっているが、現状は、架橋建設に進んでいるとは言えません。御承知のとおり、会議に参加するメンバーは関連自治体の市長、県議、市議、行政からは幹部職員など、そうそうたるメンバーであります。しかし、会議をしても、明るく日の新聞やテレビでは、そのときの状況はほとんど取り上げてもらえません。毎年会議だけは開くが、その先の活動が広がらないわけでございます。もう少しメディアを巻き込んだ啓発活動ができないものかと、その都度発言いたしております。

市長に質問します。

議員時代から、八代・天草架橋関連の会議に毎年出席されているが、私が述べた見解に対してどのように思っておられますか。見解をお伺いいたします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 今、おっしゃられたとおりだと思います。

そのシンポジウムのときにはちょっと申し上げたんですけど、やはり、民間の期成会、行政側の期成会、あるいは議員連盟のほうも県議会、そして市議会と複数あるんですけど、やはり、ここで連絡協議会とか、そういう協力体制をつくって、同じ方向性でやっていかないと、内側で議論していてもなかなか前に進まないのではないかと申したところなんです。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） どうぞ、今申し上げたことをもう一度かみしめて、取り入れていただけるように、また、市長御自身が、私たちが参加しない会議等あたりで、少しでも反映してくださるよう、市長にお願いするわけでございます。よろしく申し上げます。

今回のシンポジウムを聞きに来た人たちは、まず架橋建設ありきで、橋がかからないと県南と天草の交流はできないといった認識を持たれているのではないかと。私は、常にそう思っているんです。では、橋がなかったら何もできないのかという話なんです。それを活性化とうたいながら、逆に歯どめをかけているような気がしてならないわけでございます。

それはそれとして、同時並行で、いろいろな形で活動しなければいけないと思いますが、私が本日取り上げた内容は、まず、県が主導するフードバレーという、既に動き出している枠組みを利用して、県南と天草の交流を活性化させる。その先に、八代・天草架橋も現実性が見えてくるという組み立てです。

改めて市長にお伺いしますが、シンポジウムの中で、熊本県のくまもと県南フードバレー構想に関する話題が出たのか。また、県南の活性化について具体的な方策が示されたならば、簡単でようございますので、答弁をお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） くまもと県南フードバレー構想についても、冒頭のほうで出ました。内容としては、余り具体的なものがあつたわけではありません。ただ、くまもと県南フードバレー構想が、天草とは全く関係ないとか、天草と連携がゼロだということではなくて、その連携も可能だという話にはなつたと記憶しております。

あと、もともと観光ということにテーマを絞っておりましたので、その他、それ以外についての言及がなかなか――。パネリストもそういう関係者の方々でしたので、そちらのほうを中心でした。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 特に、市長は行政側の期成会の会員であり、県議も上天草選出唯一の議員でございます。必ずこのお二人は、何かにつけて上天草市の代表としていろいろな会議に出席されるわけでございますので、その辺は橋の問題も含めて、やはり、一つの流れをつくっていく中で、こうなります、これが先にくればこうなりますというような、市民に対する説明。また、そのときの会議の内容によっては、市長や県議の言葉一つで、いろいろな上天草市に対してよしあしも、前に進んで――。もし、取られたならば、進んでも行くわけでございますので、その辺も慎重に。大変でございますけども、上天草市のためでございますので。八代と天草の活性化は橋のことばかりではないのだということを話をしていかなければいけませんし、変に誤解をされそうなところは区別して説明していただくことを提案するわけでございますので、よろしくをお願いします。

今回私が質問したことが、必ず上天草市の活性化や発展などいろいろな面で、いい意味での上天草市の道しるべと言いますか、方向づけ、先ほど冒頭で申し上げましたように、私の思いや意見の中で少しでも伝わるものがあれば、また、市長を中心とした中で、目に見える形で私の意見が反映されていくことがあれば、幸せに感じるところでございます。どうぞ、市長、担当部の

方々、先ほど申しましたように、いま一度、私が今回質問した部分に対して、精査しながら参考にしていただければと思います。

最後の質問に移らせていただきます。

皆さんも、この3点目については、テレビや新聞あたりで、この尖閣諸島という名前はよく聞かれると思います。

しかし、私は、もう昔から携わっている中で、このことに関しては、組合長という立場上いろいろありまして、いつこの話をしたらいいのかということでもちゅうちょしている部分がありました。いろいろな意味で、組合あたりの問題が重なった中で、変に誤解を受けたらいけないと思いながら、きょうに至ったわけでございます。私が今から申すことは、この尖閣諸島の近くで上天草市の漁船が操業しているということを、皆さんに、特に市長には、改めて認識をしていただきたい。やはり、人命にかかわることでございますので、先ほど申しましたように、会議あたりにいろいろ話が出たときに、どうか、この件に関して認識しておいていただきたいということを踏まえて質問させていただきますので、よろしくをお願いします。

上天草市の漁業者が苦しい境遇に置かれながら操業しているという事実を、先ほど言いましたように、議会のほうで皆様に周知していただくべく、項目に上げた次第でございます。

今回取り上げる漁船は、樋島漁業協同組合所属であります。四十数年前から沖縄を基地として——この基地というのは、米軍基地ではございません。漁港ですね、沖縄港、漁港。ここを基地として業をたて、現在、ほとんどの船が廃業となった中、操業している唯一の漁業者でございます。2隻おります。

沖縄県の石垣島、尖閣諸島周辺海域は、マグロ、クロマグロやマチ類の好漁場で、沖縄や九州の漁業者が漁を行っています。平成24年9月の尖閣諸島国有化以降、中国公船とのトラブルによって、漁場の変更や廃業に追い込まれている深刻な事態となっております。

資料を見てください。

昨年9月10日付の新聞の1面に掲載されています。南日本新聞、読売新聞、産経新聞も同様の内容で記事を掲載しています。

昨年11月30日に、鹿児島大学水産学部の佐々木貴文助教が上天草市に来られました。たまたま、そのときは市長もおられましたので、挨拶をお願いしたら、気持ちよく挨拶していただき、重複した仕事がありながらも、担当部長が立ち会う中でお話を1時間ばかりしたわけでございますけども、そのとき、尖閣で操業している樋島の船長も一緒でございました。先ほど言いましたように、上天草市の船籍は2隻で、天草市の船籍が3隻おります。その尖閣諸島での領有権主張、排他的経済水域を守るために、先頭に立っているような、うちの2隻の漁船はそういう立場です。

1カ月に1回か2回、必ずその船長から私に電話があるんですよ。その電話の一つ、一部を紹介すれば、もう本当にひしひしと伝わってくるわけでございます。朝一番に、今電話が通じたからということがかかってきて、組合長、ゆうべ停泊していたら、中国漁船が周りに10隻ばかり来て取り囲むので、もう命からがら逃げたんですよ。そういうようなことを電話で言うんです

ね。私もすぐに県に連絡して――、県と直接ですね、漁船と連絡をとるような流れをとっております、今、実際に。

そして、きょう、あえて御質問したのもそれにつながっていくわけですが、私は県と連絡をとっていますが、もし何かあったときには、上天草市の船、上天草市の船籍票を有している船だから、必ず市長のほうに連絡が来ると思います。ですから、この一般質問を機にその橋渡しをしていただければ、少しでも心の、気持ちの――何といたしますか、やすらぎではございませんけれども。その漁業者、船長に、私が今度市長にお願いして、お前たちが仕事ができるようにちゃんとするからというようなことを電話で言ったり、また、天草に帰ってきたときには、その都度、そういう話をしたりしています。市長には、今回、初めてお話するわけですが。

県とは直接やりとりしておりますけど、やはり、先ほど言いましたように、行政としては上天草市ですから、市のほうにも――これは経済振興部長ですかね。つながりをつくる中でしていただく、というようなことも重ねて言われたので、あえて言わせていただきました。

そういった船長が電話で私に訴えるその言葉を聞けば、何とも言えない気持ちになるわけですね。だから、もう少し早く質問をしたかったわけですが、何かの機会に、議会で、もっと掘り下げた形で、市長にも説明ができる機会があれば、ぜひともしたいと思います。

この漁船は、昭和42年から尖閣諸島でもうずっと漁業をしていたわけですが、やはり、本人たちにとっては、自分たちが開拓したといいますか、日本人として、大げさではございますけれども、そういった部分というのが――。やはり、国の内側にいけばそういった思いはないと思いますが、自然とそういうものが生まれるのかなと思いつつ、私もその船長と話をするんですけれども。

しかし、悲しいかな、現在では、中国や、ほかには先ほど言いました台湾船とか、いろいろいる中で、巡視船がそこに来ても、何かあればできるんですけど、手前での行動などはできないような状態ですから、本当に、毎日が命がけで仕事をしているような状況でございます。沖縄県の漁連に現状を伝えても、県外だからなかなか動いてくれないということです。本質は、日中、日台外交問題ですから、このために妨害や事故で九州の漁船団が廃業に追い込まれているのも事実でございます。沖縄県の漁連は、まず、沖縄の漁業者が一番でございます。これまでの本土と沖縄の歴史は私が語らなくても御承知だと思いますが、そういった思いというものがいろいろありますので、ここではあえて言いませんけれども、その佐々木助教は、まず、上天草や天草の船が尖閣諸島周辺で危険に冒されながら頑張って操業している現状を周知してもらうことから始めなければならない、というようなことを言われました。

今回、国に目を向けてもらうためにも、天草市や他の関連する自治体に窮状を広く知らせ、国を動かさなければならないという思いがあって、こうして質問をするわけですが、上天草市としても、このような事実の把握をしていただき、遠洋漁業者の安全確保に動いていただきたいということでございます。

経済振興部長は佐々木助教と話した部分についてはおわかりだと思いますけれども、その辺は、



行政の立場から聞いた中で、どのような思いがされたのか、せっかくでございますので、部長の見解をお伺いいたします。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 議員がおっしゃいますとおり、鹿児島大学の佐々木先生とお話をさせていただきました。初めて聞いたわけですが、このことについては、領有権ばかりではなくて、人命にかかわる重大な問題だと認識をしております。

今後は、本市ばかりではなくて、船籍地であるほかの自治体、それから九州各県、漁業協同組合など関係団体が協働いたしまして、必要な措置を国の関係機関へ積極的に働きかけていくことが大切だと考えております。

また、鹿児島大学の佐々木先生にはもちろんですけれども、その他の関係団体とも情報交換をしながら、現在の状況を広く周知をするなど、問題解決に向けて、できることから取り組んでいくことが大事ではないかと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） 部長、ぜひとも、その辺は市長とも話をして、いい形になるようにしていただければと思っております。

重ねてでございますけれど、最後に、市長に、今申しましたことを繰り返しますが、もうこれは本当に政治問題でございます。尖閣諸島の問題は、我々九州の人間にとっては、国防の観点からも他人ごとではありません。上天草船籍の漁船が領土問題の最前線で危険に冒されながら操業している事実をどうにか打開すべく、同じ境遇にある他の自治体と連携し、調査、啓発に動いていただきたいと願いますが、改めて、市長の見解をお願いします。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） せんだって12月議会のときだったと思います。鹿児島大学の先生と船長さんが来てくださりまして、御挨拶させていただきましたけれども、正直言いまして、私、あのとき初めて、上天草市船籍の操業船が尖閣諸島で漁を行っているということを知りました。今は、随分、メディアとしては情報が少なくなりましたが、現在も、やはり領有権ぎりぎりのところでそういう危険な操業が行われているのだなということ、改めて思ったところであります。

先ほど、部長答弁にもありましたように、関係する自治体と連携をとって、やはり国に対して、今の現状を訴えていくことも大切だと思いますし、連携を図って、改善に向けてやれることをやっていきたいと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 桑原君。

○15番（桑原 千知君） ぜひともですね、その辺は、重ねてでございますけど、もうお願いする以外はございません。

今、私は3点質問したわけですが、1点目、2点目に関しては、冒頭に申し上げましたように、本当に頭の中の霧が晴れたような気持ちで、ある意味では、中身を大幅に変えた中

で、率直な気持ちを申し上げました。もう、市長にあえて答弁は求めませんが、そういった思いでいる議員がおりますということを一。もし、この中身を見たときに、参考にできるような形で、市として動かれるような状況であれば、ぜひとも取り組んでいただいて一。また、それはそれとして、逆に、この部分はこうですからというようなことがあれば、また、我々もそれに対して応えると。やはり、いい意味でやりとりができるような形で常に関係を保っていかなければ、前に進んでいかないと思いますので、先ほど申し上げましたように、今後、副市長が来られて、次回からどのような形で議会が進んでいくかわかりませんが、新たな気持ちで、また、別の案件について質問をしたいという思いでございます。どうぞ、その辺を踏まえて、今回質問したこの3点をお願いいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

**○議長（田中 勝毅君）** 以上で15番、桑原千知君の一般質問が終わりました。

これをもって本日の一般質問は終了いたしました。

明日8日は文教厚生常任委員会、9日は総務常任委員会及び経済建設常任委員会を開会しますので、関係委員会への出席をお願いします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後 1時59分